

健康登山65: 自然歩道34 (椿大神社～湯の山温泉)

コース	椿大神社 2.7km/41 動 2.6km/59 0.6km/20	内部川 0.7km/19 雲母休憩所 3.7m/100 蒼滝 0.4m/17	もみじ谷宮妻休憩所 2.8km/49 潜戸ノ滝 1.1/30 ロープウェイ駅 0.8km/19	岳不 大石公園 湯の山ロッジ
水平距離	15.5km		断面図 縦軸：高度m 横軸：距離km	
水平換算距離	17.7km			
累計高低差	登り961m、下り868m			
標準歩行時間	5:54			
実績歩行時間	6:20			



山行報告

山行日 2011・4・7(木) 天候 晴 参加者 5名

行 動 京都7:37 加佐登9:34 椿大神社10:15～40 内部川右岸11:25 もみじ谷(昼食)12:05～45 雲母橋12:50 岳不動13:30 雲母休憩所14:10 林道最高地点15:00 潜戸ノ滝16:20 大石公園16:50 蒼滝17:15 ロープウェイ駅17:40 湯の山ロッジ18:00

記 録

前回ゴールの椿大神社を略拝してスタート。すぐに杉林に入るが平坦な落ち葉道で快適。杉林を抜けると左手に丸くてどっしりした椿大神社の御神体入道ヶ岳があった。
 内部川は川幅の広い草原の川で視界はぐっと広がる。右岸を下り渡河地点に向かう。振り返れば中央に鎌ヶ岳、左に入道ヶ岳、右に雲母峰がパノラマで広がり壮大である。川には橋が無く増水時は6kmの迂回となるが、今回は川底を歩いて渡れた。
 左岸の土手にある道標の向きが不適切で「もみじ谷」とは逆の下流方法を示している。道探しで20分ロスしたが古いリボンを頼りに進んでもみじ谷遊歩道に合流した。
 鎌ヶ岳の登山口宮妻溪の入口「もみじ谷」は紅葉の名所で、ベンチがありここで昼食。
 この先の雲母橋までは茶畑の高原で遥か裾野まで広がっている。霞んでいるがその先は伊勢湾である。雲母橋の手前から雲母峰に登れるが、自然歩道は雲母峰の山腹を巻くよう進み丸山林道の分岐から岳不動を経て湯森林道を通り雲母休憩所へと続いている。岳不動は雲母峰の東の登山口で、また湯森林道始点から近鉄湯の山温泉駅へエスケープできる。
 林道頂上近くの雲母休憩所は展望地で北に釈迦ヶ岳が見え、近くに雲母林道始点がある。
 この先から湯森林道は地道になり集中豪雨による崩壊箇所が随所にあった。林道最高地点辺りを回り込むと突然御在所岳が目に見え、その左に鎌ヶ岳も見える。
 林道終点辺りで小雨が降り出したので雨具着用で下山。下りは湯森谷右岸の階段道を慎重に下る。三滝谷の由来となった滝の一つ潜戸ノ滝を過ぎると10分で湯の山温泉バス停に出た。
 バス停から大石公園を経て蒼滝不動へ行き、蒼滝下流が通行不可のため蒼滝を往復。ロープウェイ駅前を通って蒼滝駐車場へ下り18時に宿泊地湯の山ロッジに到着。
 湯の山ロッジでゆっくり温泉に浸かり、疲れを癒やして明日に備えた。

自然歩道 (椿大神社～宮妻口～湯の山温泉)



椿大神社
を出発
10:35



内部川河畔
後方は鎌ヶ岳
11:12



もみじ谷
宮妻休憩所
12:07



鎌ヶ岳分岐
12:33



広大な茶畑く
雲母橋まで続く
12:42



雲母休憩所
14:11



崩壊した林道
15:19



潜戸ノ滝
16:18



大石公園
由来の大石
16:50



蒼滝にて
17:19

名所・旧跡ミニガイド（自然歩道：椿大神社～宮妻口～蒼滝～湯の山温泉）

参考資料 ホームページ他より

内部川^{うつべ}：高畑山に源を発する鈴鹿川の大きな支流。東海自然歩道では普段は水の少ない川で川床を渡ります。橋は無く雨で出水すると橋の所まで迂回となります。上流には「中の谷」シャワークライミングルートがあります。

湯森林道：湯の山温泉側の林道終点下りの広場（標高 240m）から、名古屋のツインタワーや恵那山が見え、夜景も綺麗だそうです。

潜戸^{くぐりど}の滝：（ガイドブックでは「潜門の滝」）湯森林道の湯森谷入口にあります。谷を構成する古生層の粘板岩を渓流が浸食して出来たもので、堅い岩盤^{うが}を穿ち、くり貫いて落ちるところから「潜戸」の名がつけました。落差 5m、水量は多い。

蒼^{あお}滝^{たき}：青く澄み澄み切った水を讃えて名付けられたそうです。落差 50m、幅 10mの二条の滝。御在所三滝川にあります。

百間滝：百間滝（70m）は御在所表道登山コースから脇道に 15 分入ると行けます。但し御在所岳の施設などの排水の影響も懸念されています。

三滝川：名前の由来は、御在所岳に源を発し源流付近の「三つの滝」（蒼滝、潜戸の滝、百間滝）の流れからきています。古くは三重川として知られていました。（二級水系 23,3km）

湯の山温泉：鈴鹿山脈御在所岳東麓 318mの地点にあり三滝川に沿う。養老年 2 年(718)に発見された。泉質アルカリ性ラジウム泉。（けがに効く）昔、傷ついた鹿が谷川に足を付け気持ちよさそうにしていた。（鹿の湯伝説）明治 10 年西南戦争の折に、負傷兵の臨時療養所に充てられています。昭和 25 年愛知国体の登山競技開催地となり全国に知れわたりました。昭和 34 年御在所ロープウェイ開通で人気を集めました。

大石公園：湯の山温泉街を流れる三滝川の川原一帯が公園。「湯の山の大石」と呼ばれる大きな石があり、川の中にある石としては三重県下最大です。800t あるといいます。

大石内蔵助が参勤交代の途中、浅野内匠守の実弟の奥方が、ここの菰野藩の姫君であったことから、伺候方々この地に立ち寄り、川の中の大きな石が、自分と同じ名前の「大石」であることから大変好んだ場所であったといわれ

ています。

なみだ 涙 はし 橋 : 浅野家再興の夢破れた大石内蔵助が、世を欺くため京都で遊興にうつつを抜かしていたが、物見遊山を装い、愛人小柴太夫御阿軽を伴って湯の山を訪れ、同士の集まるのを待ち、夜半になって初めて、阿軽にその意中を打ち明け、涙ながらに別れを惜しんだ所で、いつの間にか涙橋と呼ばれるようになった。